

基礎分野

基礎分野は、看護の専門職を育成する上で基盤となり、「専門基礎分野」及び「専門分野」の基礎でもある。教育理念に掲げる生命の尊厳を基盤に、人間に対する深い理解と洞察力、幅広い豊かな人間性の醸成を中核として、科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す教育内容とした。

科学的思考の基盤

■構築の考え方

科学的思考の基盤として、「論理学」「生活科学」「情報科学の基礎」「情報科学の実際Ⅰ」「情報科学の実際Ⅱ」を科目立てた。「論理学」「生活科学」では、日常生活および医療現場における種々の現象を科学的に認識し、判断力や思考力を養う内容とした。1年次の「情報科学の基礎」は誰もがソーシャルメディアを利用する時代において、情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を含む概論的な位置づけとし、医療における情報システムと個人情報保護も含めた情報の扱い方、2年次に「情報科学の実際Ⅰ」として、プレゼンテーション資料の作成、海外も含む情報検索などとした。3年次は「情報科学の実際Ⅱ」として、統計処理の基礎的な方法を学び、得られた結果を読み解く知識を修得する内容とした。

人間と生活・社会の理解

■構築の考え方

人間と生活・社会の理解では、人間と社会の仕組みを幅広く理解し、家族論、人間関係論、カウンセリング理論と技法を学ぶ内容とした。また、看護職者として人権の重要性について十分理解し、人権意識の普及・高揚をはかる内容を含め科目立てた。看護は援助を必要とする人たちとの間の密接な人間関係の上に成立している。しかしながら、近年、技術の進歩に伴い対面で直接行われるコミュニケーションの機会の減少や地域における交流の機会が減少している。これらをふまえ、看護の対象である人間の心理と行動を学び、対象理解や人間関係を築く基礎的能力を養う「心理学」、他者の思いを汲み取り人間関係の形成基盤となるコミュニケーションに加え、カウンセリングマインドにより良好な関係を創る能力を育成するため「コミュニケーション論」を科目立てた。そして、人の生き方やものの考え方、人の権利と意思決定をめぐるさまざまな問題について考える力を養う「哲学」、社会構造と社会的存在としての人間を理解し、多様な社会の中で幅広いものの見方を学ぶ「社会学」、人間形成における教育の機能および看護場面に必要な教育活動の基礎的能力を養う「教育学」、国際化へ対応しうる能力を育成する「英会話」、「保健英語」、「英書講読」、さらに健全な心身の発達を図るとともに健康教育を学ぶ「保健体育」を科目立てた。